

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を図り、実践につなげていく。	法人理念を基に「沖は一つの家族、みんな仲良く、自分らしく」というホームの理念を立て、職員会議等で話し合っている。ホーム理念は玄関に掲示され、来訪者にも分かるようになっている。利用契約時に、利用者本人や家族に理念に沿ったホームの取り組みを説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの状況により家族以外との交流はない。	開設以来、自治会費を納め、地域の一員として活動している。回覧板を回していただくと共に、自治会長などから情報をいただいている。コロナ禍で地区行事等が中止になっているが、傾聴ボランティアの来訪が再開した。今後、フラダンス、コーラス等のボランティアの再開を図っていく意向がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理事が色々な場で講話に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いでの意見は取り入れ、活かそうと努めている。	運営推進会議は昨年11月に同法人の有料老人ホーム、通所介護施設と合同で開催している。自治会長、自治センター職員、地域包括支援センター職員、有料老人ホーム管理者などが出席し、利用状況、活動報告、事故報告、意見交換等を行っている。	地域の一員として地域から様々な意見を頂いたり、ホームの状況を知っていただく為にも運営推進会議を定期的に(2ヶ月に1回)開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あまり頻繁にはいかないが、取り組んでいる。	自治センターとは、随時、相談したり、情報交換をしている。地域包括支援センターとは入居者の紹介等で連携を取っている。介護認定更新調査については調査員が来訪し、職員から現状を細かく伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束なく、ケアに取り組んでいる。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠している。転倒落下危険のある方が五分の二強おり、家族と相談の上で、人感センサーを使用している。身体拘束に関する研修会を年2回行うと共に、身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を中々持たず、出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まれに苦情はあるが、理解・納得を図れている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様家族が希薄な為、意見等聞かれていない。	若干名の利用者が自分の意見・要望を表出でき、都度思いに寄り添うようにしている。表出できない方には表情や仕草から汲み取るようにしている。現在、家族との面会は事前に連絡を頂いた上で、居室で、時間は20分程度、人数は2名以内としている。面会時に利用者の様子を伝えたり、要望を聞いている。利用者の様子などは毎月発行の「GH沖ニュース」等でお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	中々設けられず、反映出来ていない。	職員会議を月1回開き、利用者のケアカンファレンス、法人の連絡事項の伝達や、業務全体を話し合うと共に研修会等を行っている。また月1回法人の管理者が集まり、事業所の報告等を行っている。理事長や管理者との面談は必要に応じて実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足により、環境はあまり整っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	あまり取り組めていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご利用者の関係が希薄なため、協力を得るのが難しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	家族の了承を得た知人、親戚等と居室で、2名以内、20分程度の面会が可能となっている。利用者が連絡を取りたい際には事務所の電話を使用している。馴染みの訪問美容師が3ヶ月に1回来訪し、カットを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度認知の方が多く、難しい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後は関わりがない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い・意向の把握に努めている。	入居時に家族から聞いた生活歴や入居後の日々の支援の中で気づいた言動等を介護記録として纏めると共に、職員間で情報共有することで利用者の意向に沿えるようにしている。一方的でなく選択できるような声掛けをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている。	職員は1～2名の利用者を担当し、居室の整理整頓、状況把握に努めている。介護計画は、事前に本人や家族から希望や要望を聞き、担当職員と管理者で作成している。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年で見直し、状況に変化が見られた時には適宜見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	入居時に希望する医療機関を聞き、それに沿えるようにしている。現在、利用者全員が協力医の武石診療所による月2回の往診を受けている。診療所の看護師と連携し、24時間オンコール体制となっている。歯科についても必要に応じて協力歯科医の往診に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	契約書に「看取りに関する指針」が定められており、入居時に説明している。終末期には家族、主治医を交えて話し合いの場を設けている。特別養護老人ホームや医療機関等への住み替え等を含めて家族の意向を確認の上で、指針に沿い医療行為が必要でない看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力はあまりとれていない。	自然災害時のBCP(事業継続計画)が運用できるようになっている。ホームとして年2回、昼、夜それぞれを想定し災害訓練を実施しており、消火訓練、避難訓練、通報訓練等も行い、利用者も参加している。	ホームとして「水」「お米」「缶詰」「介護用品」などを備蓄すると共に、カセットコンロ等を準備することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。	「人権の尊重やプライバシー保護」の研修を職員会議で定期的に行い、利用者一人ひとりの尊厳を守ると共に、利用者の意見を尊重している。呼び掛けは基本的に苗字を「さん」付けでお呼びしている。命令口調や馴れ馴れしい言葉遣いにならないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴するよう務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	たまに職員の都合が優先されてしまう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備のできる利用者がいない。	殆どの方が自力で食事を摂れるが、一部介助及び全介助が必要な方が若干名の状況である。食事形態は刻みが数名、他の方は常食である。当日のスタッフが利用者の希望も聞いて、冷蔵庫の食材を参考に献立を決め、調理している。出来立ての食事提供を心掛けている。また、行事食として鰻や寿司などを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している。	自立の方が数名で、他の方はリハビリパンツやパット、オムツを使用している。若干名の方が夜間ポータブルトイレを使用している。職員は排泄チェック表で排泄パターンを把握し、個別に声掛けや誘導をしている。介護用品の使用についてはその都度家族に相談し、一括購入せずに少量ずつ購入して負担軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合になっている。	全利用者が何らかの介助が必要な状況であり、基本的に週2回入浴している。季節に合わせて「ゆず湯」「菖蒲湯」等で入浴を楽しんでいる。入浴後はお茶やスポーツドリンク等で水分摂取を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努めているがあまり出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日一人ひとりの希望は聞けていない。現状、外出は難しい。	外出時は、若干名の方を除いて、杖、車椅子等の状況で、一人ひとりに合わせた支援をしている。天気の良い日にはホーム周辺を散歩したり、ウッドデッキでお茶を飲んだり、外気浴をしている。また、十分な感染対策をとりながら少人数に分かれてドライブを兼ねて春は、近隣の余里の「花桃」見学に、初夏には美ヶ原などに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度認知の方が多く、難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度認知の方が多く、難しい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努めている。	ホールはソファが置かれ、寛げるスペースとなっている。ホール横にはウッドデッキがあり、天気の良い日には外気浴等を行っている。壁には塗り絵、貼り絵などの利用者の作品が展示されている。空調はエアコンと床暖房で、快適な空間が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	重度認知の方が多く、難しい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使用している。	ホールを中心に居室が周りに配置されている。ベッド、クローゼット、パネルヒーター、エアコンが備え付けられている。家族と相談の上で、使い慣れた筆筒やテレビ等が持ち込まれている。居室の壁にはレクリエーションで作った作品や写真を飾られている居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	努めている。		